

禁 忌 語

萩 田 時 子

要旨は、広大言語才 4号、才 5号に所収してありますので、ここでは簡単に述べておきます。
この卒論で目的としましたことは、禁忌語という 1つの言語学的現象を解明し、意味論的に解決することでした。結局現代人のいう禁忌語と原始人心性からくるそれとは、異ったものであり、前者は後者の一部を包含しているにすぎない。同じ taboo Word という表現で取り扱われている一現象も、時代を経るに従って変容しつつも尚、古いもののなごりを頑強に残している。こういった現象が言語生活の中に 1つの綾を生み出しているものと思われます。

<参考文献>

Havers : Neuer Literatur zum Sprachtabu

Ullmann : The Principle of Semantics

Bloomfield : Language

O. Jespersen : Language:「英語の成長と構造」

Ogden Richards : 「意味の意味」

O. Jespersen : Mankind, Nation and Individual From a Linguistic point of view

Meillet : Linguistique historique et linguistique générale

Wundt : 「民族心理学」

Frazer : The Golden Bough vol.Ⅲ

柳田 国男: 「柳田国男集」 vol.5

前 島 巖一郎: 「英独比較文法」

榎 垣 実: 「隠 語」

ク セ ジ ュ: 「意 味 論」

小 林 智質平: 「英語学概論」

S. I. ハヤカワ: 「思考と行動における言語」(文責 本人)